

天溪 2016 年「モンブラン・マッターホルン縦走 10 日間」

7 月 20 日発

「モンブラン・マッターホルン縦走 10 日間」を前回に続き 7 月 20 日～7 月 29 日に行いました。行程は全く一緒、シャモニで足慣らしをしてからモンフォーへ進み、本格的にハイキングをスタート。チェルヴィニアのケーブルを除き、ツェルマツト手前のトロッケナーシュテーク(2939m)まで全て歩き通す、少しハードなアルプスハイカー羨望のコース。先の旅行記でお伝えしましたが、ツアーは 4 日目 スイスのアローラ(2000m)からマッターホルンを回るツールドマッターホルンのコースに合流し、3 泊 4 日かけてツェルマツトへ向かいます。夏季オートルートとは一味違うアルプス最深部のハイキングを楽しみました。



(エーデルワイスの歌合唱 7/26 日)

○パラライエへ

シャモニ到着時は快晴で数名の方がエギュードミディ展望台へ、ただ混雑で下山はかなり待たされたとか。気になる明日からの天候は前回同様で数日間 晴・雲・雨 の変わりやすい予報。プランプラからフレジュールへ向かうトレイルはこの時期珍しく満開のアルペンローゼが斜面を赤く染め、季節はまだ半月遅れの様相。車を使ってベルビューへ移りロープウェイと徒歩でモンフォー小屋へ。翌朝、今回こそはシューのコルを越えパラライエへと出発しましたが、中腹まで進むと急に辺りが暗くなり朝から雷の襲来。長く山をやっているとこの自然現象に痛く反応、即下山。またしてもディクセン経由でパラライエ小屋に入りました。



(満開のアルペンローゼ 7/21 日)



モンフォー小屋の日時計

○アローラへ

朝から天気はぐずつき気味で、ルーのコル(2804m)からデイス湖に下り、湖岸に咲くお花畑を楽しみながら進み、モレーンに取り付いたころから何故か回復。前回は季節外れの雪に煙り見えなかったモンブランシェイロン(3870m)やピンドアローラ(3790m)が現れました。この山並みは 3800m前後と決して高くありませんが、氷河をまとい遠くから見れば真っ白。アルプス最深部はやはり寒い所です。シェイロン谷からアローラ谷へ貫けるコルはリードマッテンとルシェーブルが並んでいます。ルシェーブルは昨年整備され、鉄梯子が新しくなり、多少スリリングですが時間短縮と登りやすさから前回同様ここを利用しアローラへ。



(ルシェーブル 7/23 日)



○氷河、国境を越えて

今日から4日間はツールドマッターホルンのコースに入り、難所と言われるところ。と言うのはここから氷河歩行や約1000mのアップダウンが続きます。前回は異常気象であたかも冬山状態でしたが10日後の今回は夏始まりの様子。どちらが良い

か問われても難しいところ、寒くてもクリアーに抜けた山並みを楽しむか、それとも雲は出やすいながらお花も楽しむか??
 モンコロン(3637m)の裏側にあるアローラ氷河は前回雪で隠れていた氷が顔お出し、今度はモレーンの岩場を縫うようにコロンのコルへ(3087m)。ここでKさんの独唱 ' ベートーベン第九 喜びの歌 ' がアルプスに響きました。(独語)



(アローラ氷河 7/24 日)



○イタリア側

ナカムリ小屋(2818m)を後に朝日を浴びて標高差 800mのパラライエに下り少し早い昼食を取っていると、小屋のスタッフからプロモーションビデオのエキストラ出演の依頼が有り3名が参加。撮影者いわく、良く撮れたとの事で、次の来訪時に見たいものです。パラライエを出発し徐々に高度を上げると、道すがら高山植物が所狭しと咲いていました。振り向けば今朝発ったナカムリ方面が彼方に浮かび、遥か遠くへ来たものです。ベルコネラ谷を更に進み前回同様に途中から超急坂を登り上げてベルコネラのコル(3066m)へ。今回はアイゼン無で通過できると思われた雪渓は残雪がタップリと残り、早速装着し慎重に通過、ペルッカ小屋(2900m)到着は午後 5 時を過ぎていました。



(あざみ 7/25日)



○ツェルマットへ

夏雲が浮かびガスが出そうな暖かい朝、どうも夜中ににわか雨が降ったようです。余談ですがペルッカ小屋のトイレはロッジから 100m以上の離れたあたかも離れ小島で、荒れた夜中に行こうものなら遭難しそうなロケーション。トイレはさておきシグナナ峠(2441m)に向け快調に下り、更に少しトラバース気味に手前の丘へ。今回も有難い事に見事に現れてくれました'モンテ・チェルビーノ'。今までの苦労が吹き飛ばすような現れ方は感激の一言です。そこでKさんの指揮で'エーデルワイスの歌'を合唱、旅の思い出が一つ出来ました。辿り着いたチェルビニアはツェルマットと並ぶスキースタートで、やはりイタリア、美味しいパスタとピザとそしてワインで明日への英気を養いました。

そしてハイキング最終日はケーブルを 3 回乗り継いでテオドルパス(3479m)へ登りハイキングをスタート。氷河上をトロッケナーシュテーク(2939m)へ進み、これにてハイキング終了、全員完歩。

雲上のアルプス縦走成し遂げて

エーデルワイスの歌を合唱す



(テェオートル氷河 7/27 日)



筆者が年なのか、ザイル・ハーネス・アイゼン等が重いのか、ワインの飲み過ぎなのか、何だか遠い昔の山行を思い出し、苦勞以上の充実感に浸りました。中々 登り応えのある素晴らしいコースですので皆様もチャレンジしては如何でしょうか。

天溪のツアーは半月ほど夏休みをいただき、次は「ピレネー国境横断ハイキング 10 日間」、「ツールドモンブラン 10 日間」、「チロルとドロミテハイキング 10 日間」、そして秋を飾る「紅葉カナディアンロッキーとオーロラ 10 日間」へと続きます。